CO-DESIGN STUDIO Dgraph company newsletter

THE CO-D WEB TIMES

TEL：050-1726-5272　Mail：dgraph-info@dgraph-web.com　https://dgraph-web.com/
©2025 Dgraph LLC. All rights reserved.

2026.03.04. Wednesday.　ディーグラフ通信

2026ホームページデザイントレンド紹介

ホームページに、なぜトレンドを意識したデザインが必要なのか考えたことはありますか？

デザインのトレンドを意識することは、単なる流行の追求ではありません。それは、閲覧者に「この店や会社は活発に動いている」という安心感と信頼を与えるための重要な要素となるからです。

古いデザインは、無意識に「情報の更新が止まっているのでは？」という不安を与え、離脱を招く原因になります。

時代の感覚に寄り添ったデザイン表現を取り入れることで、情報の伝わりやすさを最大化し、ブランディングの提供と差別化を図る強力な武器となり得ます。

今のホームページに求められるのは、単なる美しさ以上に「信頼感」と「自分事化」をいかに瞬時に引き出すかです。

HPアクセス時に最初に目に入るFV（ファーストビュー）でストーリーを可視化し見せたい情報へと導くポイントをご説明します。

その１：ファーストビューでストーリーを可視化

現在の主流は、単なる美しさや見やすさだけを追求した加工された素材集ではなく、作り手の温度感が伝わる実写の活用に変わってきています。

シネマグラフという手法で、現場の日常の様子や身の回りの風景写真などに少し動きを加えるだけで、滞在時間が劇的に伸び情報への誘導やSEO対策への有効性が高まります。

また、目を引くFVに加えて心に刺さるキャッチコピーをインパクトのあるタイポグラフィで大きく配置することで、どんな商品やサービスを提供しているホームページなのかを一瞬のうちに伝えることができます。

その２：直感的なUIで見せたいコンテンツへ

閲覧者を誘導したい情報に導くには、ストレスのない視線誘導デザインが必要です。操作に迷った時点でホームページを離脱する可能性が一気に上昇します。

追従型ボタンやハンバーガーメニューの設置、常駐透過型ナビゲーションバー、Bentoグリッドと呼ばれる情報をカード型に整理する手法など、見せたい情報に最適なデザイン手法で迷いなく導きましょう。

その３：閲覧者は顧客だけではない

人材不足に悩む企業や店舗にとって、ホームページは最強の採用ツールとなりえます。「どんな場所で、誰と働くか」を重視する未来の従業員にとって、ホームページ全体から醸し出されるイメージは最大の判断材料です。

トレンドのデザインを整えることは強力な採用ブランディングに直結します。

「なぜこの会社・店舗があるのか」というビジョンをデザインで表現することで、その価値観に共感する人材を引き寄せます。入社後の自分をイメージさせ、応募への心理的ハードルを下げる情報を提供することが、ミスマッチを防止する重要な要素となるのです。

その４：スマホ最適化デザインは必須

閲覧者の多くはスマホで情報を探します。トレンドデザインであることは、無意識のうちに「この会社は時代に合わせて変化している」という安心感と信頼につながります。

企業向けの情報提供サイト以外のホームページであれば、レスポンシブデザインと呼ばれるスマホやタブレットでの表示を自動的に最適化する仕組みを取り入れることて、よりストレスフリーなUXを閲覧者に提供しましょう。

昨今のデジタル環境の変化に合わせて、表示速度の改善やモバイル環境への最適化など、企業の信頼感維持と顧客満足度向上のマイナーアップデートにも最適な時期。

心機一転の気持ちをデジタル戦略にも反映させ、販促にもさらなる弾みをつけていきましょう。

貴社の新たな挑戦を、確かな技術と提案力で誠心誠意サポートいたします。

チキン南蛮「もう一つの聖地」へ

宮崎のチキン南蛮といえば、おぐらが定番ですが、Dgraph本社がある県北延岡にはタルタルソースなしの、元祖チキン南蛮「直ちゃん」があります。

２月定例会議の後に、カラッと揚がった卵衣に甘酢が染みた独特のチキン南蛮と、同じく名物の鶏たたき定食＆鶏モモ焼き定食を少しづつシェアしながら、全員で食卓を囲んで英気を養いました。延岡にお越しの際には、ぜひこの名物料理をご賞味ください！

今月のヒトコト

桃の節句を過ぎ、暦の上ではいよいよ本格的な春の訪れを迎えました。

新年度という大きな節目は、ビジネスの基盤であるウェブサイトを今一度見直す絶好の機会です。

情報の鮮度を保つ定期的なメンテナンスや最新のセキュリティ対策、そして新規プロジェクトに特化したランディングページの制作などは、新たな年度における集客の大きな原動力となります。